広報あいかわ

合川町広報
No. 189
発行日・47．3．20（3,000部）
発　行・秋田県合川町
　　合川町役場
編　集・企　画　課

わたくしたちの町

人　口	男	4,806人
	女	5,258人
	計	10,064人
9月中の転入		21人
〃　転出		11人
世　帯　数		2、206

（2月29日住民登録人口調）

二十八議案を可決
新年度予算六億七千万円
三月定例会終る

二月二十四日招集された三月定例町議会は、三月二日まで八日間の会期で審議され、提出された昭和四十七年度合川町一般会計予算をはじめとする二十八議案、陳情三件、意見書一件をそれぞれ可決・採択して閉会しました。

今議会は、三月二十九日の町議会議員選挙を目前にした最後の定例会とあって終始真けんな討論がなされました。

畠山町長から、六億七千余万円にのぼる新年度予算の内容を中心とする施政の方針（別掲）について説明がなされ、一般質問は、農業問題、大野台開発、道路の整備、職員体制、乳幼児保育、老人対策など、当面する重要問題について六議員より質問が出されました。主な議案の内容は次のとおりです。

合川町国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定

葬祭費を現在の二、〇〇〇円から、五、〇〇〇円に改めようとするもの。

合川町特殊児童等就学助成に関する条例の一部を改正する条例の制定

従来の助成金、月額一五〇〇円を、月額三、〇〇〇円に改めたもの。

合川町健康な子どもを育てる条例の一部を改正する条例の制定

国が、児童手当を制度化した関係から、出産特別手当が重複することになるので、乳児医療扶助費に改め、満一才未満の乳児の医療費一部負担金の全額を支給しようとするもの。

合川町土地開発基金条例の制定

町が、公共の利益のため土地を先行取得し、町の発展に寄与しようとして、毎年予算の定めによって基金を積立てようとするもの。

合川町中小企業振興融資斡旋に関する条例の制定

合川町の中小企業で、事業資金を必要とする人に対し、融資の斡旋をはかって事業の円滑な発言を期そうとするもの。新年度は、五百万円の預託で、資金枠二千五百万円となっている。

合川町開発基本構想の策定

地方自治法第二条第五項の規定によって、町の基本構想を策定しなければならないことになっているが、町では、昭和六〇年における合川町のあるべき姿を想定し、町行政における長期的展望を示したもの。

定例会で答弁する畠山町長

財産の取得について

川井字五郎左衛門田の沢、及び鳥屋沢地内の一五、二九二㎡を取得し、宅地造成をしようとするもの。

町行造林契約の締結

東根田、西根田、杉山田、三木田、大内沢の各部落と相方五割の分収によって六十年間契約をしようとするもので、全体の面積は、七九・六八ｈａとなっている。

美栄、金沢線団体営農道整備事業の施行

昭和四十七年から四十九年の三ヶ年で、美栄、愛生園、金沢線延長、一、五九五Ｍ、巾員六・〇Ｍを、一、八五八万円で整備しようとするもの。

昭和四十六年度合川町一般会計補正予算

これまでの予算総額に、才入才出それぞれ三三一万五千円を減額し、総額七二、〇二三万九千円に補正したもの。減額の主なものは、農業構造改善事業量の減額などであり、追加は公有財産購入費が主なものとなっています。

昭和四十七年度合川町一般会計予算

総額六七、一四六万九千円であり、その内容については町長施政方針のとおり。

鷹巣、阿仁広域市町村圏組合規約の変更

広域市町村圏組合独自の事業が予定されることや、消防、ごみ処理などの一部事務組合を統合して、この組合の共同処理する事務をふやすことによる変更。

季節の話題

新学期

ことし小学校へ、あるいは保育園へはいったお子さんにとっては、新しい人生？の出発点というわけです。口ではうまくそれを表現できないでしょうがお子さんにとっては大きな環境の変化です。いままではお母さんに甘え、近所のお友だちだけだった交友関係から、家庭を離れて顔も気心もわからないお友だちと一緒に暮らす時間が増えたのですから、家に帰ってくるまでの張りつめた気持ちは察してやらなくてはなりません。親の目から見ればお子さんはいつまでたっても甘えん坊でやんちゃぐらいにしか見えませんが、一歩外へ出れば子供たちの世界にも案外、おとなの世界と同じような環境が待ち構えているようです。

東京のある幼稚園の先生のお話によりますと、子供たち同志の間でも競争心やしっと心はもちろん、おどしやけんかは絶えないようです。

しかし、それを一概に良し悪しの判決をくだせる親は何人いるでしょうか、みんなよい子になってもらいたい気持ですが、幼稚園とはいいながら、これも人間の社会です。おとなの社会の縮図とみていいでしょう。

努力がみのる
県スポーツ賞に輝いた沢田（駅前）さん

46年度県スポーツ賞に当町、合川高校三年生の沢田まり子さん（駅前）が選らばれました。

これは県体育協会が今年度国体、インターハイなど全国大会で三位以内に入賞した人の中から選らぶ名誉ある賞です。

沢田さんは合川高校入学と同時に県内では指折りの伝統、実績のあるフェンシング部に入り、中島先生のもとで持ちまえの負けん気と努力で日々練習に励げみました。

この成果が次第にあらわれ一年、二年と各種大会で大活躍、三年生になってからは全国高校体育大会で三位に入賞、東北高校大会では優勝と目ざましいものがあり、これの実績が認められ今スポーツ賞、受賞者に選らばれたものです。

愛の鐘、ついに実現
実行委員会の努力みのる

子どもたちを健全に育てたいという願いをこめて、合川町愛の鐘設置促進実行委員会（代表町婦人団体連絡協議会長土濃塚イマ氏）が進めていた、愛の鐘設置促進募金運動は、この程締切られ、総額三十八万二千二百五十円の尊い募金が集まりました。

実行委員会では、昨年来目標額三十万を定め、一般、篤志寄付の呼びかけを精力的に進めていましたが、その努力が実をむすび、目標額を上まわる成果をあげました。

実行委員会では、さっそく、役場を訪れ、畠山町長に、町民の願いをこめたお金と要望書を手渡し、早期実現を図るよう要請しました。町長は、その労をねぎらうと共に、昭和四十七年度事業として、広報無線の設置事業を予定しているので、その中に愛の鐘を併置することを約束しました。

この愛の鐘運動は、昭和三十六年以来、婦人会を中心に進められていたものでようやく日の目をみるに至りました。

地域の子どもは地域で守るという基本的な考え方から出発した運動で、愛のチャイムを鳴らして家に帰る時間を知らせるなど、事故から子どもを守り情操豊かな子どもに育てることをネライとしたものです。

今年の予算と重点事業

町民福祉政策を中心に

自由、平和、進取の郷土づくりを

町長の昭和四十七年度施政方針の説明

昭和四十七年度の予算案を主要議題とした町議会は、去る二月二十四日招集され、三月二日閉会しましたが、新年度の予算案の提出に当り、町長は次のように町政の執行方針と予算の大綱について説明し、議会ならびにみなさんに、深い理解とご協力を要望しました。に町民のみなさんに、深い理解とご協力を要望しました。

財政危機に効率施策で対処

昭和四十七年度合川町一般会計予算案を骨子とする各議案を提出する定例町議会にあたり所懐を申し述べて私の施政方針といたします。

昭和四十六年度は、町民のみなさんのご協力により、所定の事務と事業が順調に執行され、立町以来最大の規模である一般会計のみで七億二千二十三万九千円の才入才出となったのでありますが、町民生活にとって重要な合川北小学校の建築、待望の町道改修舗装、合川中学校の給食実施、合川診療所への繰出しによる健全化、ゴミ処理施設、そして県営圃場整備事業及び減反対策にかかわる費用並びに第二次構造改善事業等、画期的な事業が行なわれたのであります。

このうち、昭和四十七年度以降永続的に費用が増嵩するものは学校給食、ゴミ処理等であり、これは昭和四十七年度から大巾に増嵩する老人医療費、乳児医療費の無料化等とともに合川町の財政に対し大きな影響をもつものとなるのであります。

このような現実にドルショック等一連の経済事情の変化によって地方交付税の財源の延び率が大巾に減少する予想により才入と才出の両面から町財政が圧迫される公算が大きい関係上、昭和四十七年度は立町当時の財政再建団体の指定に次ぐ財政的な危機の年でもあろうかと思うものであります。

よって、私は昭和四十七年度予算の編成にあたっては重点的に町民福祉政策を中心に冗費と過去の堕性を排した効率的な考えを中心にし、新しい年の町政を執行する方針であります。

県内で初めて広報無線設置事業

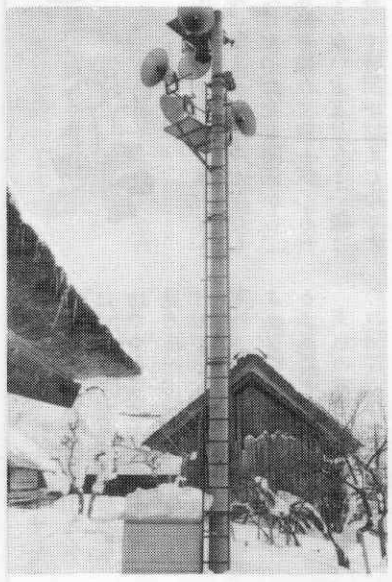
このような、客観情勢のなかで策定した昭和四十七年度一般会計才入才出はそれぞれ六億七千百四十六万九千円の予算を編成いたしました。

順を追って、各課室委員会等の担当する重点事業を申し述べてみますと、総務課では交通指導車を購入して激化する交通戦争に対処する、交通安全対策に百九十八万五千円、県立米内沢高等学校改築等負担金二百八十六万六千円、消防費は鷹巣、合川地区消防一部事務組合負担金二千九十七万一千円のほか、消防団費八百七十五万三千円を計上いたしました。

企画課では、町内に対する広報連絡のために県内でも初めての試みとして広報無線設置事業など千万円を措置し、これには愛の併置される予定で、その費用の一部として青年会、婦人会を中心とする団体から相当額の寄付を見込んでおります。

鷹巣、阿仁広域市町村組合負担金六十八万円、土地開発先行投資の基金として五十万円、公立合川高校組合補助金及び負担金五千百六十万円、町商工会助成五十万円、そして零細商工業者への融資対策として県信用保証協会予託金五百円等を計上いたしました。

保健課では、成人病検診無料のための費用二百十七万八千円、母子保健対策費二百六十万五千円、各種予防対策費百九十一万七千円、既存のゴミ捨て場の整理等に六十三万円、森吉町ほか二ヶ町村火葬場組合負担金五十四万一千円、ゴミ収集焼却費等二百九十九万円、鷹巣町ほか六ヵ町村衛生施設組合（し尿処理）負担金二百七万五千円、鷹巣、阿仁地域環境衛生組合（ゴミ処理）負担金三百七十六万円、簡易水道繰出金二百二十九万円、母子健康センター運営費三百七十万五千円等となっております。



チャイムの鳴る町めざして（広報無線）

健康保険税据置き

福祉政策大巾に前進

保健課の所管に属する国保特別会計では、才入才出ともに一億三十一万七千円となり、医療費の引き上げにより国保財政は重大な局面に立たされておりますが、その予想赤字一千三百二十九万九千円のうち一般会計から二百九十万円の繰入れを行ない、一千三十九万九千円の実質赤字を想定したものであります。

保険税は、いちおう引き上げることなく一世帯当り一万八千円平均とし、また葬祭費は二千円を五千円に引き上げる等の措置をとっており、昭和四十七年度における国の施策の推移、県の指導、老人医療費の無料化等による医療費の変化等を検討したうえで、昭和四十七年度後半または昭和四十八年度にその根本対策を樹立する方針であります。

福祉課関係では、老人福祉費として敬老会、ことぶき大会、老人の健康診査、老人クラブ活動費助成等百五十四万九千円、ことぶき荘運営委託費百十一万八千円あらたに身体障害者家庭奉仕員委託料四十五万円を計上、秋田県厚生協会へ大野台ひばりヶ丘ホームの敷地の一部を寄付するための費用百五十万九千円、町社会福祉協議会の法人化に伴う費用及び特殊児童等就学助成を月千五百円から三千円に引き上げる分として百三十七万九千円、生活保護世帯及び七十才以上の老人の交通災害共済掛金二十三万三千円の全額町負担、大野台ひばりヶ丘ホーム建築助成百万円、七十才以上の老人が合川診療所において治療をうける場合に四月一日からこれを無料とするためと、全医療機関については七十三才以上を無料とするための費用併せて四百十八万円、社会福祉基金積立百二十二万四千円、国保特別会計繰出金二百九十万円、青少年対策費として百四十八万二千円、児童館建築費として一ヵ所分二百六十万円、各保育園の保修費六十六万五千円、児童手当二百三十一万円、あらたな制度として乳児医療費扶助として百十四万三千円、特別保育手当八十四万円、出稼ぎ対策費として、合計百三十九万七千円等を計上いたしました。

町営林一千ヘクタール、既存集落内舗装、ほぼ完成

財政課の所管では、町営林事業費四千二百九十四万六千円を計上し、新年度の町営林は累計で七百十三ヘクタールとなり、概に部落と契約済みのものを加えると九百五十七ヘクタールに達し、町営林事業千ヘクタール到達は目前に迫りました。

また、負担金その他についてみますと、森吉町ほか四ヵ町村病院組合負担金百八十五万六千円、新年度に建築しようとする教員住宅三戸分九百二十一万九千円、さらに長期債元利償還金は六千八百十一万四千円を措置いたしました。

税務課の関係では、納税報償費二百二十八万円のほか、明四十八年度が固定資産の評価替えの年であるためその費用として若干を計上いたしました。

特別用地室では、地籍調査事業等に百六万五千円、また農業委員会の費用総額は五百七十五万六千円を計上いたしました。

建設課の関係については、町道維持補修費でダンプカー五・五トン車購入費三百万円、除雪、排雪費として百九十八万二千円、舗装及び側溝補修等で八十五万三千円をそれぞれ措置しております。

町道の新設改良事業としては改良工事四百五十米、その工事費四百十万円、舗装事業としては二千六百七十米の工事費二千三百六十九万五千円を計上し、巾員四米以上の概存集落内舗装の大部分が完成されるよう措置されております。

また側溝新設改良工事も百五十米で五十四万五千円を計上し、橋梁新設改良事業としては根田二号橋の永久橋架替工事費として八百万円を計上、併用林道との連繋による産業関連道路としての効率が高まるものと期待されます。

次に災害復旧費として査定済みの町道苗代沢線二百八十一万五千円、雪田沢川改修工事として二千百十九万三千円をそれぞれ計上いたしました。

宅地造成事業としては、川井五郎左ェ門田の沢の用地と国有地、池沼の払下げを行ない一万五千二百九十二平方米を取得し、その工事費一千二百二十三万、それに既造成地の元利償還金を併せて二千百八十九万五千円を計上しております。

この事業は、汚水悪嗅公害の解消と子どもの遊び場設置も併せて行なわれるもので、その財源は造成地処分を見込んでおります。

町営林1,000ヘクタール。もう間近か

きめこまやかに農業施策

林道整備もすすむ

農林課の関係について申し述べますと、養蚕奨励事業としては養蚕技術員養成及び指導等に六十六万四千円、モデル地区として梅栄部落に対する助成六十五万円、また、葉たばこ乾燥施設助成八十六棟分六十七万九千円、同じく育苗施設に対する組合助成八十九万九千円、農業協業集団化助成四十万円、畑地集団化等農地調整対策費十一万八千円、加工用トマト推進費六万円、農業共済組合助成金及び防除機購入費助成として二十八万四千円、増沢生活総合センター助成十四万円、農業青少年育成資金利子補給金十四万二千円、畜産振興の面では乳牛、和牛繁殖事故防止事業として二百頭分及び乳牛導入十頭分、種豚導入等を主体に三十二万一千円を計上いたしました。

農免道路事業費負担金とし

三面へ

二面より

て、一期、二期分併せて百七十九万三千円、合川町土地改良区助成として人件費相当額四百二十万九千円、羽立地区県単共同施行による約十ヘクタールの圃場整備事業費補助として百七十一万円、土地改良促進費四十五万円、農業用施設改良事業三十万円を措置し、また第二次農業構造改善事業費は、計画により継続して行なわれますが、その計画費百二十五万二千円、事業補助金四千四百六万五千円、合川、下小阿仁両農協の協同事業に対する助成金として五百七十万一千円、米の生産調整費としては通年施工二百六十ヘクタール分九百五十四万八千円、共同転作奨励費等に百三十五万七千円を措置し、農道整備事業としては、美栄～金沢線延長五百米、巾員六米として八百三万四千円、その他の農道整備事業では道城、桃栄線等に五十五万円を計上いたしました。

林業費としては、林業構造改善事業として入会林野の近代化二十一万四千円、林道開設費として小芦沢林道千三百米、根小屋沢林道千百米、焼山林道八十分一千七百二十万円、素材生産施設分二十八万二千円等、林構事業森林組合補助百十五万五千円、一般助成金三十万円、労務班共済費助成五万九千円、小芦沢県単林道事業五百米二百九万円、山枡沢林道開設事業、千米八百万円をそれぞれ計上し、町内林道の大巾整備を期するものであります。

東小、北小にも給食

診療所経営安定めざす

教育費関係について申し述べますと、教育研究所費百十万円、合川北小学校校庭整備事業として百五十万円合川西及び合川南の両小学校改築調査費三十万円、四つの小学校の教材備品及び就学援助費として三百四十三万円を計上、中学校費では武道館建設費三百十二万円、陸上競技場整備費等百三十九万五千円、遠距離通学費助成費八十三万三千円、教材備品、就学援助費として三百九万八千円をそれぞれ計上し、内容の充実を図る措置をしておりますが、学校給食も本年度から合川東小及び合川北小の両校に実施するためその予算を工事請負費として四百八十七万円、備品購入費として六百三十二万七千円、給食会に対する補助として三百八十一万五千円を措置いたしました。

次に、社会教育費でありますが、成人式十七万二千円、青年、婦人学級、家庭教育学級、一夜講習会、梅の木学級、商工ゼミナール、栄養改善リーダー学級等に対する費用八十六万二千円、公民館費では一般運営費百四十三万八千円、文化財費二万二千円、広報活動費十二万円、生活技術講座費八万三千円を計上し、部落づくり運動費は三十九万円、農業近代化ゼミナール費は四十八万六千円、また、社会体育関係については町民体育祭、家庭バレーボール普及費、体力づくり運動費等として七十三万円を措置いたしました。

合川町立合川診療所については、昭和四十六年度から経営内容を変えて運営しておりますが、経営実績は予測どおりで、本年度においても入院一日当り平均十五人、外来八十人と予定した予算を編成いたしました。

その総額は四千五百六十一万九千円でありますが、そのうち外来収入三千百十六万七千円、入院収入一千四百九万三千円、その他の収入百三十六万円を見込み、経費の主なものとしては、十二人乗りの患者輸送車兼往診車の購入費百万円、薬品等の原材料費一千八百六十万円、給食材料及び寝具費百六十五八千円と人件費となっておりますが、診療所の運営に当っては、町民の健康センターとしての機能の向上と経営の安定を期する方針であります。

福祉優先の町政を―乳児検診―

次に、そのほかの特別会計について申し述べますが前年度より継続で建設されている新田目、福田簡易水道建設会計は第二年次分として一千百三十八万五千円を計上し、六月に完成、七月から給水を開始する予定でありますが、その財源としては国庫補助金三百三十万円、起債六百三十万円、一般財源百七十八万五千円を見込んであります。

簡易水道施設会計は、総額二百六十一万一千円でありますが、羽根山、駅前、鎌沢及び七月から給水の始まる新田目、福田地区の運営に要する費用で、本年からは各地区とも超過料金以外の基本料金を三百円として、生活様式の多様化に伴ない将来下水道施設の設置と併せて全町に普及を図る考えであります。

企業誘致特別会計は、町で誘致した三つの企業の施設整備費の元利償還金と今後の誘致費として百五十二万一千円となっておりますが、誘致した三企業分の元利償還は本年度をもって完済となるものであります。

建設事業に32パーセント

歳入、ますます高まる国・県依存

新年度一般会計予算の財政構造を性質別にみますと、人件費は十九・十六%に相当する一億二千八百六十五万七千円、物件費は五千八十六万四千円で七・五八%、公債費は七千六十一万四千円の十・五十二%、扶助費、補助費等その他で一億八千四百七十四万五千で二十七・五十六%となり、また建設事業費の補助及び単独事業費が二億一千二百五十八万一千円の三十一・六十五%、災害復旧事業費は、三・五十八%の二千四百万八千円となっております。

以上、才出につきましてそのあらましを述べてまいったわけでありますが、それらの才出に充当すべき一般会計予算の財源、いわゆる才入はどうなっているのか、この点につきまして申し述べてみたいと思います。

まず、町税でありますがその総額は五千三百九十六万五千円でありまして、内訳は町民税一千二百三十三万円、固定資産税二千三百十万三千円、軽自動車税二百八十八万九千円、たばこ消費税八百六十八万二千円、電気ガス税四百六万二千円、木材引取税二百八十九万六千円で、その構成比は八・〇%となっております。

地方交付税の占める比率は極めて大きく、五十二・五%に当る三億五千二百七十万円が見込まれ、自動車重量譲与税は六百十三万九千円、自動車取得税交付金五百六十万円、交通安全対策交付金は五万円を計上、この比率は一・八%。分担金及び負担金は八百六十万二千円、その主なものとしては児童措置費負担金であります。

使用料及び手数料は二百十七万四千円で比率は一・三%。国庫支出金は四千九百二十九万六千円、その主要なものとしては公共土木施設災害復旧費及び児童措置費負担金で三千九十四万三千円、橋梁整備事業及び林道事業等の国庫補助金一千六百六十二万二千円及び国庫委託金百七十三万一千円その比率は七・三%であります。

県関係の支出金についてみますと、七千八百三十七万五千円で、主なものとしましては負担金百八十七万五千円、農業構造改善事業、林道事業等の、県補助金七千五百五十一万五千円、県、委託金百万三千円で十一・七%となります。

次に、財産収入六百五十三万七千円、寄付金六百二十二万七千円、繰入金三百二十六万三千円、繰越金一万円、収入二千一百三十万五千円を予定し、その比率は五・六%であります。

なお、町債につきましては七千九百四十万円を期待して計上いたしておりますが、その内訳は過疎債三千三十万円、山振事業及び一般単独事業の一般単独債七百万円、県整備資金四百万円、災害復旧債七百十万円、公有林整備債三千百万円で、その比率は十一・八%を示しております。

隣接町村との協力強化

生活を守る運動を継続的に

次に、昭和四十六年度補正予算について申し述べることにいたします。

一般会計の総額は七億二千二十三万九千円となり、三百三十一万五千円の減額補正となりますが、その主なる内容は才出において広域市町村圏組合負担金の追加二十四万五千円、老人医療扶助費と乳児医療扶助費の追加五十万三千円、成人病検診及び伝染病救治費三十一万九千円、ゴミ処理施設負担金二百万円をそれぞれ追加、季節労務者対策費として三十八万八千円の追加、農林水産業費では農業構造改善事業の補助事業変更に伴ない二千三百二十一万円を減額、合川農協補助十一万六千円と施設事業所敷地料七十万一千円、県畜産公社出資金五十万円、北秋田射撃場建設補助金十万円、米生産調整事務費十九万七千円をそれぞれ追加計上、土木費では宅地造成事業の土地購入費一千三百九万五千円をあらたに計上、教育費では給食管理費及び学校プールの補助起債の減額による財源振替が措置され、また公債費では百八十三万七千円を追加いたしました。

特別会計については、国民健康保険会計が国庫支出金の増額と財源振替により四百六十八万九千円を追加補正して、総額は九千四万六千円といたしました。

合川町立合川診療所会計は、二百六十七万円の追加補正により、総額で五千百六十六万七千円となりますが、これは主として医療単価の値上りによる増収分を見込んだものであります。

簡易水道施設会計では、十一万七千円を追加補正して二百五十二万九千円の総額といたしました。

宅造土地購入費など

四十六年最終補正

以上、わが合川町における予算の内容を中心としてご説明申し上げたわけでありますが、このほかに国及び県が行なう事業としては、県道鷹巣～川井～堂川線の全面改良舗装の促進、町道森吉～合川線における県代行事業、新田目地区の改良促進、阿仁川の改修促進、大野台内陸工業団地の造成と企業の誘致促進、蟹沢山一帯を県民の森に指定方の促進、根田字山枡沢地内に予定する全県植樹祭を計画どおり昭和四十八年五月十九日に実行方の促進とその関連事業の整備、山村振興事業、林業構造改善事業、県営圃場整備事業、農業構造改善事業、大野台農免道路の継続的な事業の促進等はいずれも町民の経済、福祉に重要な関連があり、また国有林作業員の雇用の安定等、労働者及び第二種兼業農家の生活を守る運動も継続的に行なう方針であります。

このほか、東北新幹線の大館～弘前ルート経由の実現、鷹角線の早期貫通の陳情、鷹巣阿仁広域経済文化の発展のため隣接町村との協力体制の強化、昭和四十八年度頃と予想される電話自動化の促進運動等にも意を用いてゆく方針であります。

広域行政については、とくに五ヵ町村の経済に関係する消費流通センター、食肉センターを鷹巣町南鷹巣地内に建設の計画を支持し、生産消費の経済効率を意図することに意を用い、また道路管理センターを森吉町米内沢地内に設置して主として舗装道路の補修事業を共同で行なうことを支持する方針であります。

合川高校が公立化し、いちおう合川町単独の学校から、広域の学校となったわけでありますが、この学校の将来とわが合川町の将来は不離一体の関係にあるもので、今後の発展には町民各位のご協力を心から期待するものであります。

次に、大野台愛生園の関係でありますが、昭和四十八年度を目標に同園の団地内にあらたに精薄者の授産施設の誘致促進の運動を展開する方針であります。

わが町の人件費が予算総額に占める率は一般会計において十九・十六%であり、これは他町村に比して比較的少ないのでありますが、本町の財政基盤は隣接町村中では最下位の関係から極力その増嵩を押えることに留意していることは論をまたないところでありまして

こうした観点からも町職員の質的向上が期待される所以でもあります。

私は、町民と町議会のご協力により町の職員を適正に管理して行政効率の実効を引き上げるよう努力する所存であります。

最後に、わが合川町が自由、平和、進取の気質に富む住みよい郷土となるよう邁進することを誓い、私の施政方針といたします。

住民の声を大切に

動き出した町政モニター

町政に対する町民各層の要望や意見を聞き、その声を反映した住民サイドからの町政をすすめようとして、町では二月一日から「町政モニター制度」を採用することにしました。

町政モニターは、定数を二〇〇人以内として、職業別、年令別、男女別からそれぞれ選ぶことにしておりますが、今年は各層から一七三人のモニターを委嘱しました。

モニターの任務は、アンケート方式によって課題別に意見を出していただいたり、随時通信の形で自発的な意見を発表したりするものです。

モニターから提出された回答や意見は、分類整理の上、報告書を作成し、町長、助役、各課長に報告し、関係機関等に送付して行政事務の貴重な資料として活用されます。

なお意見、苦情、要望のうち、必要と認められるものについては、本人に回答するほか、広報あいかわを通じて発表することにしています。

意見の多い民生関係

アンケート方式による課題別の回答を求めるものについてはまだ実施しておりませんが、随時通信二月分による意見は、二十五人から寄せられ三十五件にもなっております。

総務関係では、交通安全、選挙、役場窓口など七件。民生関係がもっとも多く、福祉、衛生、ゴミ処理など十件。労働、企業誘致に関する要望も、時代を反映して八件。さらに土木、災害については、道路、側溝、河川改修について八件。教育面では、郷土芸能、文化財についてそれぞれ一件の意見がありました。

具体的な質問、要望と当該課の意見、回答を二件紹介いたします。

問・孫が中学校に通学するとき、川井の近道を利用しますが、道路が悪いので、車にドロをはねられ困るといいます。私もたまたま病院の車でそこを通ると、なる程と思います。一日も早く良い道路にしてくださるようお願いします。

（六〇代・主婦・木戸石）

建設課の意見

圃場整備の工事中、ブルトーザー等の通行により、道路がぬかるみとなります。その都度砂利を入れ通行の人に迷惑のかからないよう指導しておりますが、御指適の事実もあって申訳ありません。

雪消えや工事の進行状況とにらみ合せて、全面的に補修しますので御了解ください。

問・我が町では、各地区に保育園がありますが乳児園はありません。乳幼児施設は今後ますます必要になると思います。実現したら、共稼ぎ夫婦などどんなに助かることでしょう。

（四〇代・主婦・八幡岱）

福祉課の意見

議会の一般質問でも意見が出されました。施設が欲しいということで検討中の訳ですが、現在の保育園に併設するか、独立施設にするかまだ決っておりません。これからの主婦の就業状態を考え、充分検討して適切な対策を立てたいと思います。

なお、誘致工場と密接な関係もありますので乳幼児、低学年児童の託児所的施設について、企業とも話し合いを深めてみたいと考えています。御協力をお願いします。

青年婦人議会

もり上った質疑

第七回合川町青年婦人議会は、去る二月六日公民館を会場に開かれました。

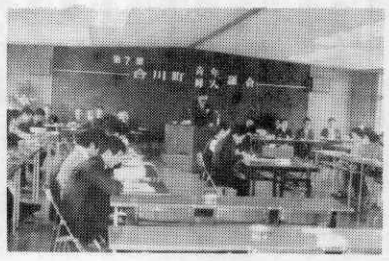
この会には、町三役、教育長をはじめ、役場各課長が執行部として出席、本物の町議会議員のみなさんが来賓として出席しました。

当日出席した青年会、婦人会員など六〇名が全員議員となって熱心に討議が行なわれました。

議長に三浦欽一君（三木田・前青年会長）、副議長に吉田静江さん（川井、婦人会支部長）を選任し、午前中は、畠山町長の町政に対しての説明、ひき続いて鈴木貞幸君（鎌沢・青年会）三浦鉄子さん（三木田、青年会）、佐藤政義君（川井青年会）、疋田良子さん（上杉、婦人会）、新田テイ子さん（福田、婦人会）の五人が町政全般について、きめこまやかな一般質問を行いました。

午後からは、委員会に分れ、各課長の説明を受け町の実態について学習しました。

最後に、三月二十九日に行なわれる町議選の立候補者に訴える「明るく正しい選挙決議」を満場一致決定し、立候補者に送付協力方を要請することにして閉会しました。



盛り上がった青年婦人議会

一足早い入学式

希望と不安チョッピリ

今年の新入生は百三十二名

一足早い、入学式が去る二月二十二日東小学校でおこなわれました。

お母さんと、一緒に小さな胸に夢をふくらませ、校門を通った子供たち。

もうすぐ、一年生になるんだという喜びでいっぱいでした。

この日は、新入生の一日入学日、先輩たちの教室で授業参観、勉強ぶりをみる日、最初はとまどいながらもジョジョに落ち着き、態度はもう一年生、これもお母さんと一緒からかな……

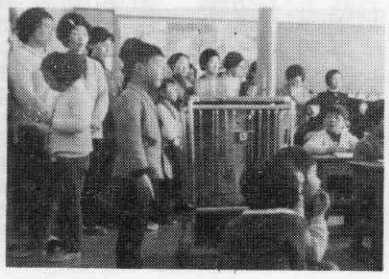
午後からは、レクリエーション、先生の案内で校舎見学と楽しく学んだ一日でした。

最後におみやげをもらい帰るうしろ姿は、もうすぐ一年生という喜びが身体中あふれているような元気な子供たちでした。

なお、今春四月一日、町内四つの小学校に入学する新入生は、東小四十六名、西小三十二名、南小三十一名、北小二十三名の百三十二名です。

子供達の待ちに待った入学式はもうすぐそこまで来ています。

どのこも、みな元気で入学して下さい。



一日入学風景（東小にて）

ありがとう

善意のご寄付

次の方々から、故人の香典返しにかえて尊い浄財の寄付をいただきました。

町の社会福祉事業の基金に繰入れ、有効に役立たせることにいたしました。

紙上を通じて厚くお礼申し上げます。

（社会福祉法人、合川町社会福祉協議会）

○松橋昭五（三里）父・吉之助さんの香典返しにかえて七千円

○福岡憲一（三里）父・金作さんの香典返しにかえて五千円

○本間四郎兵衛（鎌の沢）長男・久徳さんの香典返しにかえて二万円

○佐藤七助（川井）母・マツさんの香典返しにかえて一万円

○沢藤留之助（美栄）父・勝治さんの香典返しにかえて一万円

○畠山佐一郎（木戸石）母・サダさんの香典返しにかえて一万円

慶弔だより

自二月　一日
至二月二九日

○おめでとう、ご健康をお祈りいたします。

藤田留美子・勝信長女（八幡岱）、山岡由紀子、和夫・長女（雪田）、松橋香奈子、要吉二女（三里）、藤岡まさ子・直一郎長女（季岱）、佐藤公子・建護二女、金田良子・常男二女（新田目）、平川守・昭夫長男（季岱）、安部敦子・寿勝長女（増沢）、桜井かず子・佐一郎長女（梅栄）

●謹んでごめいふくをお祈り申し上げます。

佐藤マツ・七助母（川井）畠山サダ・佐一郎母（木戸石）、三浦サト、政吉妻（三木田）、工藤イネ・本人（西根田）、三浦サツ・一母（三木田）、佐藤仁七・本人（川井）、沢藤留之助・本人（美栄）、松橋竹治・本人（駅前）、伊藤タマ・金助三男の妻（杉山田）

お知らせ

年度の変わりに伴い、各証明書が多数取り扱われる時期になりましたので、役場窓口時間を、三月十五日より四月三十日まで、次のように改めました。

月曜日～金曜日
八時十五分～五時十五分
土曜日
八時十五分～十二時三十分

みんなで検便を

健康とくらし

最近は以前と異なり、寄生虫のおる人も随分少くなりましたが、まだ約一割の人は虫を飼っているようです。それらの方はほとんど病状がないのですが、虫が多くなると色々イタズラをし、体の調子を狂わせることがあります。寄生虫には色々種類がありますが、その中でも、特に多い十二指腸虫、回虫について述べてみたいと思います。

十二指腸虫は一cm内外の白糸のような虫であり、口には歯があり、腸の壁にくっついて傷をつけ、血液中の栄養を取り生活しております。一匹当り一日約〇五cc出血するため百匹いると常にヤクルト約一本分の血液が失われることになり、年中生理が続いているようなものです。そのため貧血になり、息切れ、めまい、頭痛がおこり疲れ易くなります。一度糞便中に入った卵が畑地にまかれる普通一二ヶ月条件がよければ一年も生きており、人が素足でその上を歩くと足の皮膚より、ことに指と指の間より侵入し、血管を通り小腸に住みつき以上のような悪さをします。

また、回虫は一見みみず様の虫で長さが十五～三十cmの虫であり、小腸で人がせっかく取った栄養を横取りして生活しております。この虫は一匹で住むことはほとんどないので多数で小腸の所にトグロをまいて腸閉塞をおこしたり、また胆石の原因になって胆道を閉塞させたりすることもあります。そのため、時には腹痛をおこしたり、また生米や土を食べたくなったりすることもあります。

予防としてはほとんどが食物と共に体の中に入るため人糞をなるべく使わないように、また野菜類はよく洗い使用するようにしたいものです。（特に地面に近かった葉の根元は）

そのような害あり益のない寄生虫を一掃するため町でも三月下旬検査を行うことになりました。

衛生指導員を通じて容器が配られますので小、中学生を除く人は全員（特に貧血のある方、時々腹痛のある方、以前寄生虫のおった方は）受けた方がよいと思います。

尚、その際次のようなことに注意したらよいと思います。

一、下痢便の場合他に迷惑をかけますので取らない様に。

二、袋には必ず氏名、世帯主名、部落名を書き（消えない様に万年筆かボールペンで）封をして下さい。（封をしない場合容器が外に出、誰れのものか区別がつかなくなることがあります。）以上のようなことに注意し、皆**んなで受けたいものです。**